

〔古事談^六亭宅諸道〕一條院御時、以言望顯官之時、有勅許氣、而御堂^{○藤原道長}令申給云、以言者、鹿馬可

迷二世情^{上句鷹鳩不變三春眼、帥內大、藤原伊周御供於西海作也、ト作者也、爭浴朝恩哉云々、仍不許云々、}

〔江談抄^四〕鷹鳩不變三春眼、鹿馬可迷二世情^{以言}

此句依恨暗漢雲之子細、叡感之餘擬補藏人、雖然入道殿^{○藤原道長}并殿上人不承引之故不補、仍爲

放言所作也、其時殿上人諺曰、湯氣欲上云々、本姓弓削也、

〔古事談^一王道后宮〕一條院崩御ノ後、御手習ノ反古ドモノ御手宮ニ入テアリケルヲ、入道^{○藤原道長}

覽ジケル中ニ、叢蘭欲茂秋風吹破、王事欲章讒臣亂國トアソバシタリケルヲ、吾事ヲ思食テ令書

給タリケリトテ、令被給ケリ、

〔愚管抄^三〕一條院うせさせ給ひて後に、御堂^{○藤原道長}は御遺物どものさた有けるに、御手箱の有け

るを開き御覽じけるに、宸筆の宣命めかしき物をか、せおはしましたりける、はじめに三光欲

明覆重雲大精暗とあそばされたりけるを御らんじて、次ざまを讀せ給はで、やがて卷こめて焼

あげられにけりところ、宇治殿^{○道長子頼通}は隆國^{宇治大納言}には語らせ給ひけると、隆國は去るして侍

なれ、

〔小右記〕長和四年八月四日辛巳、主上^{○三條}御目昨宜御坐由被仰、然而未供威儀饌、先日有可供之仰、

尙不快歟^{○中略}又密語云云、仰云、讓位事、左府^{○藤原道長}近日頻有催事、答云、伊勢祈後、又今年以後隨狀

可思定者、太奇事、甚恐事也、十月二日己卯、資平云、主上密々被仰云、日來左大臣頻責催讓位事、太

奇事也、又云、當時宮達不可奉立東宮、依不可堪其器、故院^{○一條}三宮^{○一條}足爲東宮者於吾前所定如

此左右思慮何爲、至今讓位事都思留了^{○中略}又被仰云、大納言公任、中納言俊賢、爲吾多不善事、催左

大臣令責吾禪位、此事不安、仍訴申神明、口身及子孫不宜歟、十善故登寶位、而臣下何有危吾位哉、憂

心一時不休者、不可外漏、爲見合向後事所記耳、廿六日癸卯、去夜被物保重之恐、以資平令申左相